

房どり収穫向きのミニトマト 新品種「房美人」(トマト桔梗交43号)

ミニトマトの一般的な長期どり栽培では、つる下ろし作業に多大な労力を必要とします。また、慣行の収穫作業において一果房当たり多数の小さい果実を個どりで収穫するため、これらの作業の軽減化が求められていました。長野県野菜花き試験場では、*bu* 遺伝子(短節間遺伝子)をミニトマトに付与することにより短節間・短果房化を図り、つる下ろし作業の軽減と房どり収穫を可能にしたミニトマト品種を育成しましたので、その特性について紹介いたします。

☆ 技術の概要

1. トマト新品種「房美人(系統名: トマト桔梗交43)」は、短節間遺伝子を付与した短節間性の素材系統 F₇ 世代と F₆ 世代 2 系統の単交雑により育成された一代雑種です。既存のミニトマト品種「千果」に比べ、節間長が 67% (5.5cm) と短く、果房の長さも 54% (8.9cm) と短いのが特徴です。
2. また、「千果」に比べ、果実は 15g と小さく、やや扁平形ですが、房どりでの収量性は優れ、裂果の発生は少ないです。果実の糖度は「千果」とほぼ同等で酸度は高く、食味は同程度です。
3. 「房美人」は萎凋病(レース1)に対して抵抗性を有しています。
4. 「房美人」は短節間、短果房形質を有していますので、栽培管理・収穫労働時間のうち、誘引等および収穫作業の労働時間を大幅に短縮できます。



表1 トマト新品種「房美人」の主要特性(2006~2008年の平均)

品種・系統	節間長 cm	果房の長さ cm	総収量 kg/株	良果収量 kg/株	1果重 (良果) g	裂果率 %	果実品質			病害抵抗性 F-1
							糖度 Brix %	酸度 %	食味	
房美人	5.5	8.9	2.98	2.41	15.4	7.9	8.8	0.45	やや良	強
千果	8.2	16.5	2.24	1.63	17.3	12.4	9.0	0.34	やや良	強
サンチェリー250	7.0	15.6	1.71	1.42	15.5	10.5	9.1	0.33	良	強

注1) 4月上旬播種、5月下旬定植のハウス雨よけ栽培、栽植密度250/a。 注2) 収穫は房どり。 注3) F-1: 萎凋病(レース1)
 注4) 節間長: 第2~3果房の収穫期における第1花房直下の節から第4花房直下の節までの平均節間長
 注5) 果房の長さ: 8月中旬に収穫した代表的な果房の第1果と第10果の着生部間の距離

☆ 活用面での留意点

1. 房どり収穫に適するため、1果房で分枝を3までに整理し、1分枝で15果程度になるよう摘果をします。
2. ToMV 抵抗性を有していませんので、台木は抵抗性が Tm 型か抵抗性を有しない品種を用います。
3. 「房美人」は本年5月に品種登録出願公表を済ませました。
4. 詳しいことは、長野県野菜花き試験場畑作育種部(電話: 0263-52-1148)へお問い合わせ下さい。(日本政策金融公庫 農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 袴田 勝弘)